

中央委員会が開催されました

2010年6月11日に中央委員会が開催されました。島根大学職員組合選挙規定を下記のとおり改定することが提案され、採決により承認されました。

(改正前) 第13条(一般の中央執行委員の選出方法) 他の中央執行委員の定数は9名とし各支部に組合員数に応じて比例配分する。

(改正後) 第13条(一般の中央執行委員の選出方法) 他の中央執行委員の定数は8名とする。

中四国教研集会報告

第21回中四国教研集会が、2010年6月12日～13日に島根大学で開催されました。「人事院勧告準拠による給与カットに伴う諸問題」というテーマのもと、中四国の単組から大変興味深い報告がなされ、白熱した議論が繰り広げられました。

特別講演

「国立大学法人の教職員の賃金決定方法～人勧準拠方式の問題点～」

講師 長山泰秀氏(全大教副委員長)

単組報告

- ・高知大学における評価査定給制度について(高知大学)
- ・給与改定方針からの「不利益不遡及」の削除について(岡山大学)
- ・どうなる島大職員の給与(島根大学)
- ・知的障害のある職員を大学に迎えて(鳥取大学)
- ・高知大学学長任命処分取消訴訟について(岡山大学)
- ・総合理工の現実－組合員の拡大なんて無理なんです－(島根大学)
- ・教職員の多忙化の改善に向けて～女性教員の働く環境～(島根大学)
- ・徳島大学における労働問題と団体交渉(徳島大学)
- ・島根大学教員の現状と意識－平成21年度 組合アンケート集計結果から－(島根大学)
- ・アンケートに見る職員の課題(島根大学)
- ・島大労組の財政問題－財政悪化の原因と財政再建策(島根大学)

はじめて参加したという方から、率直な感想をいただいています。

会場の張りつめた空気に私は緊張しました。研究集会の質疑時間に私を取り囲んだ重苦しい空気は、報告者と質疑者のやりとりに喧嘩腰とも思える鋭い感情を聞きとってしまったために生じていました。その後の懇親会で歓談し、更に数日経ってみると、そもそも討論の場数を踏んでいないために会場の熱気に気後れし

ていたとも思えます。

それでも、今の私に残っている研修会の一番の印象は何とも言い難い居心地の悪さです。その居心地の悪さの原因は、生涯賃金がいくらなのか意



識したことがない、報告された案件に対してただ聴講するという立場にとどまるしかない私にありました。

ですから、今後は少しでも会場での居心地が良くなるよう、まずは職場環境に関する勉強をしようという私の意志が時の流れとともに自然消滅しないよう自戒作用も求めて組合活動に積極的に参加していこうと思います。（職員支部・Kさん）

一日目終了後には懇談会が行われ、組合の歌の披露もあり大盛況でした。

中央執行委員会 活動だより

○第13回中央執行委員会（2010年5月31日）

- 議題1. 中四国教研集会について
- 2. 次期役員体制について
- 3. 議案書作成について
- 4. その他

報告1. 教員アンケート報告について

○臨時中央執行委員会（2010年6月13日）

- 議題1. 全大教納入人員数について

○第14回中央執行委員会（2010年6月23日）

- 議題1. 議案書について

書記イシバシのつぶやき



役員交代の時期である。例年気が重い。役員を引き受けてくれる人を探すのが本当に難しいのだ。といっても私が捜すわけではなく、現役員が「ダメだ、また断られた・・・」というのを心を痛めながら聞くだけである。大学がもっとのんびりしていた時代でさえ役員探しは大変だった。やらなくてもいいときでもやりますと言ってくれたただ一人の人はもういない。それでも、いよいよとなればなんとか見つかる。そして、やるとなったらみなさん本当に頼れる方たちだ。組合の底力を感じるときである。役員選挙もいよいよ明日開票。全員当選しているだろうか(ドキドキ)・・・って、当選に決まっています。

編集後記にかえて～くみあいの周辺～

学内レガッタに参戦! 6月20日に開催された学内レガッタ大会に参加しました。漕ぎ手として参加したのは初めてですが、思った以上に難しい! オールが返せなくて、座席から2回吹っ飛ばされました・・・ とは言え、川風に吹かれながらレガッタを漕ぐのは実に爽快でした。仮装チームも毎年いて、これを見るのも楽しみ。来年は私たちのチームも・・・? (法文・Kさん)



ウシさんありがとう ここ一年ほど、月1回のペースで、島根県畜産技術センターにウシ(雄)の試料採取(何を採取しているかは秘密で・・・)にでかけています。先日、そのウシ達の中の1頭が出荷され、肉となった彼に直面しました。「いいお肉になって、戻ってきてくれてありがとう」と感謝の気分で一杯になりましたが、一方で、宮崎県の畜産農家さんたちの現状を見ると非常に心が痛むこのごろです。(生資・Aさん)